

JAAC だより

— 求められるプレゼンテーション力とは (前編) —

～ “表現力” と “思考力” ～

JAAC 生の皆さんは大学の授業でプレゼンテーションをする機会がありますね。苦手意識を持っている方もいらっしゃるでしょう。特に英語で行うプレゼンテーションですから、スピーキングがあまり得意でない学生にとっては苦痛ですよね。しかしながら、大学で行うプレゼンテーションの経験は就職面接の際や、将来、会社での仕事を行う上で様々なシーンの中でも役立つと言えるでしょう。そこで、今回は皆さんと一緒に「プレゼンテーション」について考えてみたいと思います。

そもそもプレゼンテーション本来の目的とは、何らかの情報を相手に対していかにわかりやすく伝えるか、ということです。このことから、人と人が様々な情報交換を行う「場」では全てプレゼンテーションが必要だと言えるでしょう。では、相手にわかりやすくこちらの意図していることを伝えるにはどのようにしたら良いのでしょうか。ここで重要なことは、相手にこちらの情報を伝える“表現力”です。表現の仕方には色々な方法がありますね。相手が理解しやすいように単純で明快、かつ、適切なことばを使うのは当然のことですが、様々なツールを用いて相手の視覚や聴覚に訴える方法によって、より理解しやすくなる場合があります。しかし、単に表現の仕方だけに工夫を凝らすだけでは自己満足にしかなりません。最も大切なことは、相手の立場にたった目線でこちらの情報を伝えているかどうか、ということです。

相手のレベルに合った説明の仕方というのは、『人を見て法を説く』ということばで昔から伝えられてきました。これは、一般に大人でないと理解できないことを子供に伝えようとしても所詮無理があるというのですが、一般人の間でもその分野の専門家とそうでない人たちとを相手にするのであれば、自ずと表現の仕方にも変える必要があるというものです。教育学の分野では、相手のレベルに合わせた教育を『相手のレディネス』に合わせると言います。レディネスと言うことばは教育学の専門用語ですから、一般には馴染みのないことばだと思いますが、相手がどのような立場の人たちなのかを分析する際に『相手のレディネスの分析』などと言って、相手の立場やニーズを確かめます。このようにして、何かを相手に伝える時は、相手（聞き手）のレベルとニーズ（何を欲しているのか）を考慮した上で適切な内容と表現方法を定めていくことになります。

自分が相手に伝えたいとする内容を数値的に 100 とする時、実際に相手が理解した内容が数値的に 70 だとすれば、それは自分の意図したことの 70% (7 割) が相手に伝わった (理解された) ということになります。これを伝達効率と言います。伝達効率が高いほど、プレゼンテーション技術 (スキル) が高いということになります。よって、優れた“思考力”によって素晴らしい内容を考えても、伝達効率が低く (悪く)、相手 (聞き手) にそれらが十分に伝わらず、理解してもらえなければ、プレゼンテーション力が弱いということになるのです。

(次号に続く) (カリフォルニア事務局: 照井)

コラム: もっと海外に目を向けよう!

最近、日本の若者は海外への興味が薄くなっていると言われていています。私はこの事について危惧の念を抱いています。お隣の国、韓国では約7割の学生が海外に行って学びたいと考え、中国では8割以上の学生がそれを望んでいると伝えられています。海外に行って学ぶことは必ずしも海外の大学に留学するということではなく、とにかく海外に行く機会を作って視野を広め、見識を深めることです。海外に興味を持つことは、島国に住む日本の若者にとっては、とても大事なことでないでしょうか。いくら海外の情報や事情はインターネットで入手することができる世の中とは言え、実際に海外に行ってみると、その土地に住む人々の生活をはじめ、歴史、文化、芸術といった様々な社会の要素を肌で感じることができ、それは豊かな教養を身につけることにも繋がります。同時に、将来の日本はどのように世界各国と渡り合っていくべきかをも教えてくれるはずです。そして、何よりもその国の人たちが思う日本という国を改めて彼等と同じ目線で見ることができるのです。このまま日本の若者が海外への興味を持たず、海外に出ることに消極的になると、日本の若者たちは『井の中の蛙』になりかねません。そして、世界から取り残されてしまうでしょう。日本という国は直接的、間接的に諸外国との関わり無くしては生きていけない国なのです。この現在の消極的な日本の若者の風潮が日本の将来の発展と繁栄に大きな障害とならないことを切に願っています。私は JAAC 生のようにアメリカの大学に留学している人たちは、これからの日本を支えていく貴重な人材だと確信しています。できることなら、皆さんにはアメリカ留学中に他国へ行く機会があることを望んでいます。

(照井)

Siesta ちょっと、一休みしませんか…?

～ Circadian rhythm : 体内時計 ～

JAAC 生の皆さんは Circadian rhythm (サーカディアン・リズム) ということばをご存知ですか。これは「体内時計」のことです。人間の身体には体内時計がセットされていて、基本的には昼間は起きて、夜は眠るという身体のリズムです。理想的にはこのリズムが乱れなければ、夜は良く眠れるし、朝の目覚めも良いことになるのです。面白いことに、この体調リズムは「光」の影響を受けるのです。自然社会に生きる人間にとっても、他の動植物と同様に「光」は太陽を意味します。ですから、朝になって太陽が昇れば自然に目が覚め、夜になれば眠ることが自然なリズムなのです。人間の身体は「光」を浴びるとメラトニンというホルモンの分泌が止まって覚醒し、反対に、夜になるとメラトニンが分泌されて眠くなるというわけです。このように太陽は長い年月をかけて人間の身体の中に 24 時間制の体内時計をセットしたのです。「光」と人間の身体の間関連メカニズムを利用して、明るい照明を使い、夜でも人間の身体を昼間だと錯覚させて深夜の仕事を比較的容易に行えるという研究結果もあるそうです。JAAC 生の中には試験前に徹夜をする人もいることでしょう。あまり勤めることではありませんが、もし徹夜をするなら部屋を明るくすると身体もそれなりに調整するそうですよ。でも、できることなら一夜づけは避けましょうね。

コラム: 「9.11」は何を意味するのか…

2001年9月11日にニューヨークの世界貿易センターと首都ワシントン郊外の国防総省(通称:ペンタゴン)に対するテロ攻撃が行われて、今年で9年経った。今なお、犠牲者の遺族の方々の悲しみは決して癒えていない。いや、今後も悲しみが薄れることはないだろう。このテロ攻撃で犠牲になった人々の中には大勢の日本人も含まれていたことを私たちは決して忘れてはならない。

あのテロ攻撃の後、アメリカはどのような対応をしたのか。そして、日本はどのような立場にいたのか。9年という年月を経ながら様々な検証が行われている。また、最近ではグランド・ゼロの近くにイスラム教のモスク建設における賛否が論じられ、さらにはコーランの焼却という抗議活動も行われている。

JAAC 生の皆さんは今アメリカにいるのだから、この機会に是非、読んでいただきたい本がある。それは、言語学者、哲学者、そして、政治学者でもあるMIT教授のNorm Chomsky(ノーム・チョムスキー)の著書、『9.11 アメリカに報復する資格はない!』(訳: 山崎 淳、文芸春秋社)である。この本は、テロ攻撃の後、一ヶ月間の間に様々なメディアが同氏にインタビューした際の内容を本にまとめた貴重なものである。事件後、多くの書物が出版されたが、まずこの本から読んでいただきたい。(照井)

【編集後記】●つい先日まで急激な円高が進んでいた。いや、円高の状況を放置していたと言うべきか。ようやく政府が介入して1ドル=85円台後半まで円安化した。貿易立国としての日本はこれで本当に大丈夫なのだろうか▼与党民主の党代表選挙が終わった。菅総理が勝利し、総理を続投することとなった。なんとか『首相がコロコロ変わる国』と言われなくて済みそうだ。しかし、今度はこれがいつまで続くかがまた問題だ■JAL日本航空が会社の再建に奮闘しているなか、ANA全日空は別ブランド会社としてLow-cost carrier (LCC: 格安航空会社)を設立するという。世界の航空業界の流れだといっても、サービスを低下させても安全を低下させては困るよな▲つい先ごろW大の学生が中心となって、新卒者しか採用しないという日本企業の採用のあり方を問う集会を開いた。私も個人的には昔から大なる疑問を持っていた。大学を卒業しても就職できないという社会状況は学生にとっては大きな不安以外の何物でもない。何のための就職活動なのか。しかし、就職内定をもらえないことへの責任と原因が全て企業側にあるとも一概には言えない。就職できないから留年するという策も一考だろうが、就職できないのであれば自分で会社を創るという気概も学生には持ってほしい。学生時代に会社を起業する若者たちにもっと活躍してもらいたい。今の日本の若者たちはそこまで何においても消極的になってしまったのだろうか。考えようによっては、その事の方が日本にとっては大きな問題なのではないだろうか。相変わらずのオヤジの言いたい放題だった。何卒、ご容赦あれ。(照井)

Let me remind you...

★JAAC 生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

★米国及び日本で開催されるジョブ・フェアやキャリアフォーラムへの参加: 2011年・2012年卒業予定の皆さんにおかれましては、日本や米国各地で開催されるジョブ・フェアやキャリア・フォーラム、海外大生を対象とした就職説明会等への積極的な参加をお勧めします。インターネット等で主なフェア開催日程を調べ、前もって各自のスケジュール調整を行い、多くの企業担当者やフェア開催団体のカウンセラーとの面談に努めてください。また、今年のボストン・キャリアフォーラム(10月22日~24日)は、<http://www.careerforum.net/event/bos/> をご参照ください。

▼新学期は順調に進んでいますか?: 夏休みも終わり新学期が始まりましたね。履修科目のDrop & Add.などの手続きをする際には期限と期日を再確認した上で手続きをしましょう。

●JAAC 本館内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口:

フリーダイヤル 0120-525-626 tokai@jaac.co.jp 担当: 高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木: t.suzuki@jaac.co.jp ©カリフォルニア担当: 照井 k-terui@mtg.biglobe.ne.jp

